

令和2年度第1回大阪府地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所評価委員会
議事要旨

- 1 日 時 令和2年7月22日（水）午後2時15分から午後4時30分
- 2 場 所 （地独）大阪府立環境農林水産総合研究所3階大会議室
- 3 出席委員 金子委員長、正司委員、竹中委員、谷委員、間藤委員、兒玉専門委員
津塩専門委員

4 議事内容

（1）令和元事業年度の業務実績に関する評価について

- ・事務局より資料1、2に基づき令和元事業年度の業務実績評価について説明を行った。評価について概ね了解を得た。評価に関する意見については、委員長預かりとすることが決定された。

<主な意見>

- ・ぶどう生産・ワイン醸造や6次産業化に関し、積極的に事業者支援を進めており、今後さらなる取組みに期待している。
- ・貝毒に係る新たな検査方法の導入は緊急時への対応と予見的な備えにとって重要な取組みであり、引き続き、食の安全確保や水産業振興に寄与する取組みを進められることを期待している。
- ・クビアカツヤカミキリについて、今後は行政と連携し、研究所の取組みが広く情報発信され、被害防止対策がさらに推進されることを期待している。
- ・アメリカミズアブ幼虫による食品廃棄物の減容化と飼料化に関する研究をはじめ、現在取り組んでいる研究がさらに発展していくことを期待している。

（2）第2期中期目標期間の業務実績に関する評価について

- ・事務局より資料4に基づき、第2期中期目標期間の業務実績について説明を行った。評価について概ね了解を得た。評価に関する意見については、委員長預かりとすることが決定された。

<主な意見>

- ・ぶどう・ワインラボの開設や「大阪ぶどうネットワーク」の設立など、第2期中期目標期間において、積極的にブドウ生産やワイン醸造に関する支援を進めており、今後、関係機関と連携し、さらに取組みが推進されることを期待している。
- ・6次産業化に向けた事業者支援の推進、アメリカミズアブの幼虫による食品廃棄物処理の技術開発等、これまでに着手した取組みをさらに進められたい。

- 貝毒に係る新たな検査方法を導入したことで、漁業被害を低減できる体制を整備する等、漁業現場における緊急時への対応と予見的な備えに係る取組みを進めており、引き続き、このような取組みが推進されることを期待している。
- クビアカツヤカミキリの被害拡大防止にあたっては、行政と連携することにより、研究所の調査研究の成果の情報発信、関係者への普及啓発に努められたい。合わせて、生物多様性に関する取組みなど、調査研究成果を多くの方々に周知するため、積極的な情報発信に努められたい。

(3) その他

- 特になし

以上